

警 察 署 協 議 会 議 事 録

協 議 会 名	令和6年第2回宮城県大河原警察署協議会
開 催 日 時	令和6年6月27日（木） 午後2時00分から 午後3時30分まで
開 催 場 所	宮城県大河原警察署大会議室
出 席 者 等	1 協議会委員 村上弘毅会長、中村弘一郎副会長、橋本鈴江委員、丹羽幸子委員、 藤原義信委員 2 警察署側 署長、副署長、会計課長、警務課長、生活安全課長、刑事課長 交通課長、警備課課長代理、警務係長
議 事 概 要	別紙のとおり
備 考	

議事概要	1 報告事項等
	(1) 令和6年5月末における管内の治安情勢について（署長）
	ア 全刑法犯認知件数
	発生件数 231件（前年比 +66件）
	検挙件数 116件（前年比 +75件）
	イ 特殊詐欺発生状況
	発生件数 4件（前年比 -2件）
	架空料金請求詐欺 2件（前年比 -3件）
	その他 2件（前年比 +2件）
	ウ 子供女性対象脅威事犯取扱い件数
	発生件数 22件（前年比 +7件）
	声掛け 8件（前年比 +5件）
	公然わいせつ 2件（前年比同件数）
	迷惑防止条例 5件（前年比 -2件）
	こどもを犯罪の被害から守る条例
	5件（前年比 +4件）
	軽犯罪法 3件（前年比 -1件）
	その他 2件（前年比 +1件）
	エ 交通事故発生状況
	人身事故 68件（前年比 -4件）
	死者数 2人（前年比 +1人）
	負傷者数 90人（前年比 -1人）
	物件事故 719件（前年比 +20件）
	(2) 令和6年下半期における大河原警察署速度取締り指針等について（交通課長）
	令和6年上半期における大河原警察署の速度取締り重点エリアや取締り時間帯、管内の交通事故実態等について説明を行った。
	【委員】
	銅線や給湯器を盗む犯人は、こういった犯人なのか。
	【署長】
	外国人グループが広域に犯行を行っていたことを把握しているが、外国人グループ以外にも犯人がいる可能性があるため、継続して各種捜査を行っている。

2 協議事項（意見要望等）

【委員】

管内で下校途中の小学生に対する声掛け事案が発生しているため、下校時間帯のパトロール強化をお願いしたい。

【生活安全課長】

子供女性対象脅威事犯の取扱い状況は、本年5月末現在、

県内 519件（前年比 -61件）

管内 22件（前年比 +7件）

となり、県内では減少傾向にあるが、当署管内では増加している。

また、当署管内の取扱い22件のうち、行為者を特定できたのは3件で、その理由として、子ども被害の場合は、通報が発生後数時間経過したり翌日となる場合が多く、加えて管内全体に防犯カメラの設置が少ないこと等が挙げられる。

現在、被害防止対策として、生活安全課員が捜査用車で警戒を行っているほか、交番・駐在所がパトロールを実施し、不審者の発見、警戒に努めているところである。

御意見のあったパトロールの強化についても、地域課長、管轄の交番等と連携し、パトロールの強化に努める。

【委員】

コンビニでP O S Aカードを購入させる手口等の特殊詐欺の被害状況を教えて欲しい。

【生活安全課長】

P O S Aカードとは、アプリ内で課金やショッピングに使用できるプリペイドカードのことで、アップルギフトカードや楽天ギフトカードがその代表である。

最近の事例では、インターネットを閲覧中、突然パソコンにウイルス感染の警告画面が出現し、画面に記載されているサポート窓口に電話連絡をすると、ウイルスを遠隔操作で除去するための料金として、コンビニエンスストアでP O S Aカードの購入を求められ、同カードを購入をしてカード番号を教えた結果、金銭をだまし取られてしまったというものがあった。

次に、架空請求詐欺被害の現状についてであるが、

県内 件数 54件（前年比 -10件）

金額 1億337万5千円

当署 件数 2件（前年比 -3件）

金額 18万円（前年比-212万5千円）

議事概要

となり、認知件数は減少傾向にある。

また、県内で認知した54件について分析した結果、男女比は、
男性63.0%
女性37.0%

年代別は多い順に、

60代・17件（31.5%）

70代・12件（22.2%）

50代・11件（20.4%）

20代・6件（11.1%）

40代・5件（9.3%）

となっており、女性よりも男性の被害が多く、若い世代でも被害に遭っていることが分かっている。

【委員】

大河原橋東たもとの交差点について、右折レーンがなく、右折待ちの車両で後続の直進車両が停留してしまうため、信号サイクルを3現示（手動路2現示「進行方向青：対面報告赤」、従道路1現示）にすることで問題解決を図れるのではないかと。

【交通課長】

3現示の規制については、渋滞緩和の方法の1つとして有効な手段である。

しかし、当該交差点は通学路で、横断歩道が設けられているものの、歩行者が横断待ちをするためのスペースがなく、歩行者が道路上で横断待ちをする状況となっており、3現示とした場合、横断歩道信号が青になるまでの時間が長くなることで、歩行者が道路にあふれ、交通事故の発生が懸念される。

そのため、現状では御意見の3現示は実施困難と判断されるが、道路拡幅による右折レーンの設置等ができれば、問題が解決できると思われるため、道路管理者に道路改良を要望する。

【委員】

船岡地内の2箇所について、横断歩道を設置していただきたい。

【交通課長】

御要望の箇所に横断歩道を設置した場合、2箇所とも横断歩道が民家や事業所の車両乗入れ口に接続しているため、乗り入れの妨害となってしまうたり、また、乗り入れ場所付近に歩行者が横断待ちをすることで、乗り入れ車両と歩行者の事故も懸念される。そのほか、北側の要望箇所については、右カーブを抜けた先の設

置となり、ドライバーの見透しが悪くなる可能性がある。

そのため、警察としては、2箇所とも設置は困難と考えている。

よって、付近の小中学生に対する指導や安全教育を推進するなど、安全対策に取り組んでいきたい。

【委員】

宮城県では、信号機のない横断歩道でどのような安全対策を取っているのか。

【交通課長】

信号機のない横断歩道には、道路前方に横断歩道があることを示すダイヤモンドを設置している。

また、道路環境に応じて横断歩道の標識のイラストを変更したり「通学路」等と記載された補助板を取り付ける等、ドライバーに対して児童の横断を意識付けできるような安全対策を行っている。

横断歩道があることを強調する必要がある場所については、通常より拡大した横断歩道の標識板を設置するなど、横断歩道を強調できるような安全対策をしている。

そのほか警察以外の対策としては、町役場や土木事務所、国交省といった道路管理者と効果的な道路標示の設置について常々検討を行い、施工を働きかけている。

【委員】

村田町内のT字路交差点で車が電柱に衝突した交通事故が発生したが事故が発生した場所は、見通しが悪いT字路交差点で、自動販売機が設置されていることにより見通しが悪くなっていると感じている。

特に交通量の多い朝夕は危険であり、私有地に設置されている自動販売機ではあるが、対策はないか。

【交通課長】

御要望のあった場所については、現場確認を行い、対応を検討したい。

【委員】

子供たちが犯罪の被害にあった場合、多くは放課後に発生しているため、子供がまず親に話をし、次の日に学校に報告するケースが多いが、最初にどこに伝えるのがいいのか。

【生活安全課長】

放課後、子供が被害にあった場合には、まず近くの民家や店等にいる大人に被害に遭ったことを伝えるなどし、直ちに警察に通報していただきたい。

大事にしたいという気持ちもあると思うが、セキュリティメール等については、被害に遭った子供の保護者と相談した上で、配信等を検討しているので安心して通報して欲しい。

警察としては、犯罪にならないようなケースでも、さらなる大きな事件の発生を未然に防ぐため、行為者を特定して注意をするなどしていることから、より多く通報をいただきたいと考えている。

3 次回の開催予定

次回協議会は、令和6年11月に開催予定